



こだま

第1号

発行日 令和3年1月25日

発行 大谷小学校PTA

編集 PTA広報委員会

表紙 防災教育とICT教育

社会も時代も変わりゆく中で
自分と周りの人たちのために
今 何をすべきなのか――

それを自ら考えて 行動する力こそ
最大の命綱となる





私は、将来、お父さんの会社で働いて、働いている人が楽しく働く会社の本社長になりたいです。 葉結

人々の命を救う病院薬剤師になりたい。 真央

僕は、将来生物学者になりたいです。理由は、小さいころに植物によって命を救われたことがあったので、小さいころから生き物が好きだからです。 純和

陸上でオリンピックに出て人を喜ばせられるような人になりたいです。 翔太

みんなを笑顔にできる介護師になりたいです。 沙恵

ぼくの夢は困っている人を助けられる警察官になりたいです。 遥叶

私の将来の夢は、宇宙飛行士です。飛行機が宇宙飛行士になるように、飛行機をつくりたいです。 美羽

僕は、子どもと楽しく遊ぶ保育士になりたい。 孝太

私はバレーボールが好きなので、将来バレーボールの選手になりたいです。 未緒

明るくて優しい人になりたいです。職業は、宇宙の航空管制官になりたいです。 葉絵

私は将来おかしな人になりたい。おかしな人になりたい。 桃香

ダンサーになってNo.1に選ばれたいです。dance たける

私の将来の夢は、声優さんになりたいです。彼に命を吹きこんで、アニメを見た人が笑顔になれるような人になりたいです。 藍葉

将来私は、世界で活躍する料理人になりたいです。 糸菜

世界中にいる動物達を助けたい。動物関係の仕事をして、動物を助けたい。 桃香

バレーボールのスポーツ少年団のコーチになる。プロバレーボール選手になりたい。 葉結

将来、ぼくのお父さんのような強い人になりたい。 睦人

プロ野球選手になって、日本人No.1プレイヤーになりたい。 瑛太

私の将来の夢は、イラストレーターです。私は絵を描くのが大好きなので、イラストレーターになりたいです。 登和

ぼくの将来の夢は、AIプログラマーになることです。AIをたくさん使って世の中の人々の生活に役立ちたいです。 未蓮

テレビ局に入社して、取材したり、スタッフになる。目撃者になりたい。 健洋

漫画家になりたい。 森福

将来、アニメ関係のクリエイターになりたい。 沙菜

世界最強の格闘家になって、尊敬される。格闘家になる。デモトリス・ジョンソンと闘いたい。 昇利

私は、動画クリエイターになりたい。人々が笑顔になるような動画を作りたい。 優

外国の大会などで、活やく、おもしろい試合を観る。外国でも有名なスポーツ選手になりたい。 真真

ヨーロッパで活躍できるような最強のプロサッカー選手になりたい。 玲央那

お母さんのような病気で苦しんでいる人々を救いたい。 由未

小さい子にもわかるようなやさしい大人になりたい。サッカー選手になりたい。 Soccer 翔

楽しく稽古できる剣道の先生になりたい。 華暖

将来は、勉強をして生物学者になりたい。なぜなら生物が好きだから。 健太

私は自分のことだけでなく、周りの人の役に立つような人になりたい。 政右

プロゲーマーになりたい。 蒼星

将来なりたい自分は？

私は幼稚園の先生になりたいです。 万琳

私は、マンガ家、デザイナー、イラストレーター、小説家、脚本家。 咲

信らいて、できる。じゅう医さんになりたい。 麗心

薬剤師になりたい。 楓人

水族館の飼育員になりたい。 愛絵

こまっている人かいたる助けられる大人になりたい。 るな

盲導犬協会の人になって、目の不自由な人の役に立ちたい。動物と心をかよわせる人になりたい。 瑞紀

看護師になりたい。 結菜

トリマーになりたい。 叶ね

薬剤師になりたい。 萌恋

心豊かでやさしい、自然に関わる仕事。 明

幸せに家庭を築いている自分になりたい。 敬文

プロ野球選手になりたい。 季生

アロゲーマーになりたい。 啓登

人の役に立つ、勇者になりたい。 瑞奈

薬剤師になりたい。 竜

自分の家をもって、元気に暮らしたい。 康太

信頼される人になりたい。 梨玖

おデザイナーになりたい。 妹

イラストレーターになりたい。 優太

私はかん護師になりたいです。 聖莉奈

私の将来の夢は、美容師やケーキ屋さん。のような楽しい仕事につくことです。 愛彩

私はドックトリマーになりたいです。 胡桃

イラストレーターなどの芸術関連の仕事に就いて、自分の夢をくぐらせる。他に迷惑をかける人にならない。 葵菜

しっかりと仕事をして、自分の好きなことができるようにしたい。 理仁

プロサッカー選手になって、海外で活躍できる選手になりたい。 哲平

カメラマンになりたい。(景色などを撮る) 高月

プロ里王来選手になりたい。 太羊羽

衣食住がみんな人からいわれる人になりたい。 元希



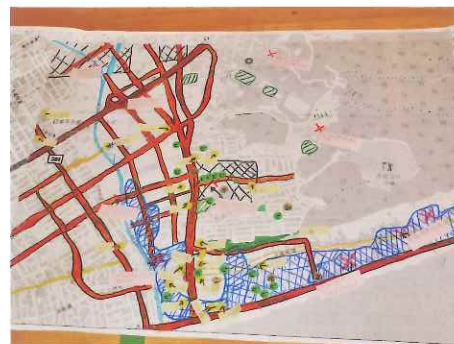
いつかまた 手と手 つないで

作詞・作曲：大谷オールスターズ2020



感 感染症対策を行うという事は、即ち自分自身と自分の大切な人の命を守るという事——「いつかまた 手と手つないで」の歌詞には、こうしたメッセージが込められています。「何のためにそれを行うのか？」という根本的な部分を伝える事で、子どもたちは主体的に考えて行動するようになる」という校長先生の想いが、この歌を生みました。この歌は、作曲：編曲・演奏の全てが、大谷小学校の先生たち「大谷オールスターズ2020」による、まさに大谷小学校のオリジナルソング。大切な仲間たちと、いつかまた、手と手をつないで歌い、元氣いっぱい笑い合えるその日が来るのを信じて、子どもたちは今日もこの歌を、マスクの下でそとと口ずさんでいます。

それをする意味を伝えるために：歌詞に込められた先生たちのメッセージ



「DIG」は、Disaster(災害)・Imagination(想像力)・Game(ゲーム)の頭文字を取ったもの。Dig(掘る)とも掛けられていて、学区内の「危険そうな場所」にシールや付箋を貼り、適切な避難経路を自分たちで掘り下げて考えていました。こうしたワークを通してアンテナを立て、普段の登下校中から、よりリアルなシミュレーションを行うようになる事が、「もしも」に向けた効果的な対策となります。

自然災害や感染症etc. 生活に潜む様々な危険から、
自分や自分の大切な人の命を守るために出来る事とは？

「もしも」に備えた
日頃の“在り方”
命を守る行動を考える

大 谷小学区の大きな地図を前に、地震や津波が起きた時に「どこへ避難するのか?」「どこを通過して行くのが安全なのか?」について、グループで意見を出し合う子どもたち——総合的な学習の時間を利用して、『D・G(ディグ)』という地図を使ったシミュレーションゲームを行なっているのは5年生です。「自分の命を守るためには、まずは自分の住んでいる地域について知ること」というコンセプトの下、駿河区地域総務課や地区支部といった地域防災のプロの方々をお招きし、登下校中の「もしも」に備えて、よりリアルな想像をつづめるに膨らませています。

今年度から大谷小学校では、静岡型小中一貫教育で行われている「しずおか学」の中で、防災分野を掘り下げて学んでいます。「小学校では、自助、中学校に入ってからには共助や公助へと学びを発展させていく事で、防災という視点から命について考えてもらう事が狙いです」と話すのは、防災学習担当の袴田先生。11月の参観会では、全年が防災学習を行うなど、学校全体として「命を守る学び」を行っています。中学校やこども園、地域との連携が取れば、更に学びが深まる防災学習。その第一歩として行われた取り組みに、子どもたちの反応も上々でした。

リアルなイメージが日頃の備えに：
長期スパンで防災を学ぶ、初めの一歩。

い、
は？

自分たちにできること！
ぜったいにあきらめないこと！
自分ができることも
勝ちついでに教へよう！
お父さん、お母さん、先生の
言うことを守ることも！

地域総務課の方のお話に、子どもたちは真剣そのもの。最後に「今日の授業で学んだ事を、帰ったらおうちの人にも是非とも共有して下さい」とお話いただいたように、内容が充実していて、とても有意義な時間となりました。

取材メモより

大谷小学校の感染症対策

学校は、数百人もの子どもたちが、一堂に会する場。それ故、感染症対策にも余念がありません。各水道には泡用ハンドソープが、そして各教室にはアルコール除菌が設置され、休み時間や給食前になると、各自で手洗いと消毒を行っています（※補充は主に５・６年生の保健委員が、ほぼ１日おきに行います）。また教室でエアコンを使用している時は、養護教諭の大槻先生が、休み時間に放送を通じて換気を促しています。




防災のプロや大谷地区をよく知る地域の方々からアドバイスをいただきながら、授業の内容が練られました。積極的に取り組む子どもたちの姿を目の当たりにし、「こういう勉強こそ授業でやって欲しかった」と大好評。

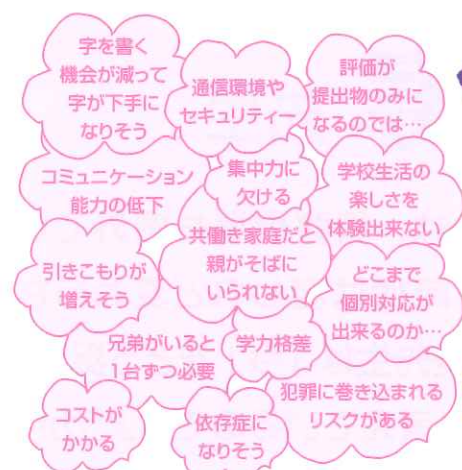
取材メモより

学んだ事を定着させるために…

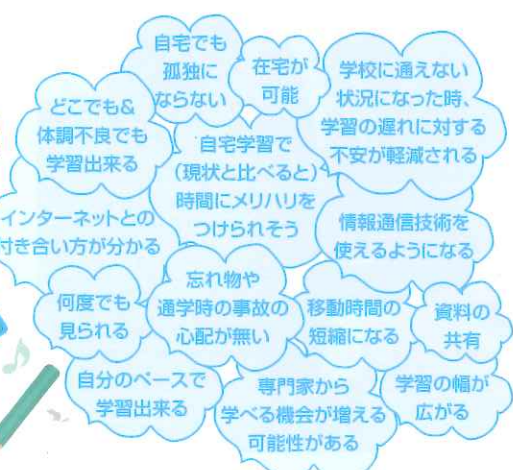
静岡市では11月を「地震防災強化月間」とし、毎年12月の第1日曜日には、地域で避難訓練を行っています（※今年度は新型コロナ感染拡大防止の関係上、実施状況は地域の自主防災組織ごとに異なりました）。自助、共助、そして避難所の運営体制の確認など、各家庭や地域での防災対策を見直し、有事に備える良い機会となります。防災学習で学んだ事を定着させるためにも、来年度は参加してみてはいかがでしょうか。



どうなる？ 新しい時代の新しい教育 急速に進んだオンライン化で教育現場はどう変わる…？



Q (保護者として現時点で感じる) オンライン授業に対するメリットとデメリットは？



1人1台時代の到来…教育現場は試行錯誤

はそのためには、具体的などのような学習が必要なのでしょう？来年度から、4年生以上は1人1台タブレットを持つ事により「例えば、授業内でカメラを使って写真を撮り、それを仲間と共有するなど、

あくまで「道具」として使えるようになる事

より、教育現場でもオンライン化の流れが急速に進みました。こうした流れを受けて、大谷小学校でも4年生の情報リテラシーの授業をパソコン室から2クラスに同時発信したり、全校集会をオンラインで行ってみたいと試行錯誤の毎日です。「だからこそ仕組みが分かって使える事が大切」と話すのは、情報教育を担当する外山先生。パソコンの根本を理解する事で、環境や使う機械が変わるうとも、変わらず使える「横断的な知識や技術を身に付ける事が、求められている」といふ事です。

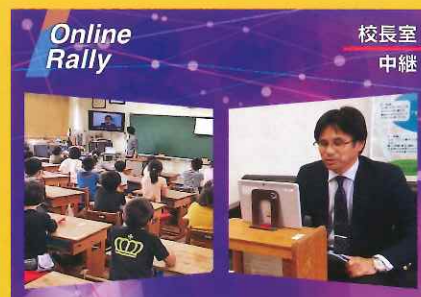
取材メモより GIGAスクールプランとICT教育

新しい時代に向けた教育環境の整備や、個人に最適化された学びの提供——それが、文部科学省が提唱している『GIGAスクール構想』です。その核となるのが、「1人1台の端末」と「高速大容量の通信ネットワークの整備」。こうした情報通信技術を活用して、教育機関で授業を行う事を「ICT教育」と言います。文部科学省では、Webサイト内やYouTubeの公式チャンネルの中で、その目的や実際の教育現場で取り組まれている様々な事例を紹介しています。



「集まる」というこれまでの学校生活における当たり前も、今後はどのように変わのでしょうか…

日常的に使えるようになります」と外山先生。パソコンやタブレットの使用が特別な事ではなく、身近に感じられるようになる事が、使いこなすための第一歩と言えますね。学年によって、そして授業を行う先生によって、授業内容や活用方法が大きく異なるだけに、教育現場では今後も、試行錯誤の日々が続きそうです。



校長室と各教室を繋いで行ったオンライン集会を、子どもたちも楽しんでいました。

オンライン化の効果

インターネットが身近になり、子どもたちも学校生活におけるオンライン化に、慣れつつある様子。オンライン授業を行った山崎先生によると、パソコンを使って意見を言える事が「自分から発信したい」という気持ちに繋がっているとの事でした。

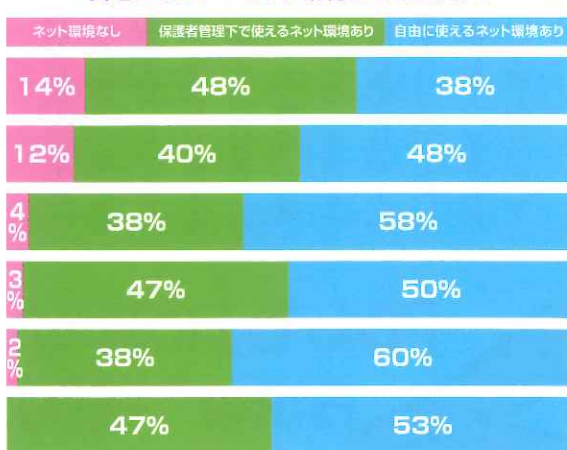
ICTの活用はSociety5.0時代を生き抜くための必須スキル!!

大谷っ子×インターネット 利用実態調査

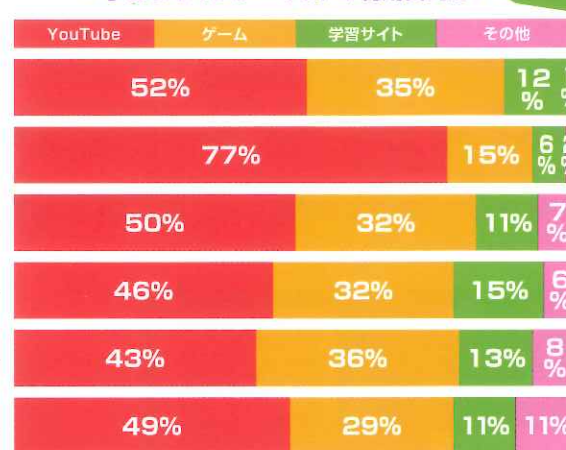
取材メモより Society5.0とは？

狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く未来社会のコンセプト。サイバー（仮想）空間とフィジカル（現実）空間を連携し、様々な課題の解決を目指す「超スマート社会」。

Q 自宅にインターネット環境はありますか？



Q 子どものインターネットの利用目的は？

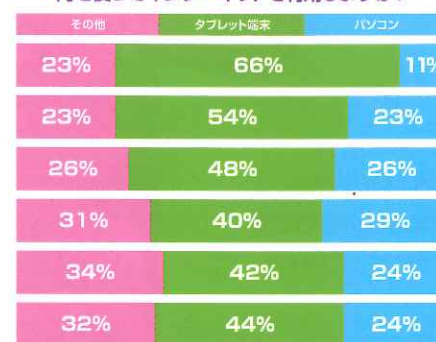


3年生から「その他」が増え、目的が多様化

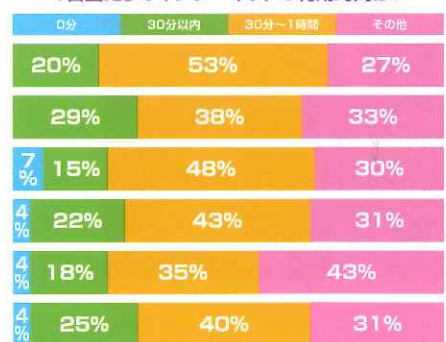
取材メモより 成長に比例した多様性

全体的に「YouTubeの視聴」と「タブレットの使用」が多い一方で、これらが占める割合を見ると、3年生を境に変化が見られました（タブレットの利用率が50%を切り、利用目的の「その他」が一気に上がる）。子どもたちの成長に比例して、利用するデバイスも目的も「多様化する」という事でしょうね。

Q 何を使ってインターネットを利用しますか？



Q 1日当たりのインターネットの利用時間は？



「休日のみ」「やるべき事が終わってしまえば使えるルール」「22時以降は使用させない」etc. 各家庭で決められているルールも、「その他」の回答の中には挙げられていました。

勉強からSNSまで

NHKキッズやThink Ink、inkやスマイルゼミなどが、学習目的で利用されている一方で、利用目的の「その他」では、NetflixやOpenrecTVのような動画配信サービスや、InstagramやLINEといったSNSが挙げられるなど、大人顔負け(?)の回答結果も見られました。

今や生活必需品？

パソコン・タブレット以外のデバイスを見てみると、PS4やNintendo Switchといったゲーム機や、TVやアレクサといった家電も、回答として挙げられていました。ネット環境も、学年が上がるほど整備される傾向にあり、もはやインターネットは、子どもたちの生活に浸透している事が、改めて伺えました。

「その他」に見える子どものリアル





Special Interview

全身から「子ども大好きオーラ」が感じられます

鈴木 寿 先生

オンライン化が進むのは、教育現場も例外ではありません。一方で、時代は変われど変わらないモノもあります。校長先生は「今」をどう捉え、そして「これから」をどう考えているのでしょうか？

高い出席率の背景に見る
大谷地区の「伝統的な良さ」

変

則日程や度重なる予定変更が相次ぐ中、今年度の大谷小学校の出席率は、例年よりも高い結果に——「職員も保護者も、様々な点で安定している事が大きな要因です」と誇らしげに話すのは、4月から大谷小学校に赴任してきた鈴木寿校長先生。「保護者も地域の方々も、学校に対して理解してくださり、「一体感がある」という言葉を証明するかのような、安定して高い出席率の背景には、大谷地区の「伝統的な良さ」があったという事です。

主体性を育むためには
「根本」を伝える事

激

動の時代に求められるのは、自ら考えて行動する力——

「重点目標は主体性」と校長先生。「讀いたとしても、何かを発見し、気付く事が大切。それが自己肯定感を生み、学ぶ楽しさへと繋がる……最終的なゴールは、子ども自身で設定するのが望ましいのです」と話すように、校長先生が重視しているのは「何故そうするのか？」という「根本」を伝える事。変化や対応が必要な時こそ、「コミュニケーションが大切なのです」。

不易と流行……変化の時代に
ハイブリッドで対応

学

習指導要領の改訂にICT教育の本格化と、教育現場はまさに激変期。「不易と流行」という

視点があります。プログラミング教育は今のトレンドであり、ICTを利用するための知識や技術の習得は必須です。では、不易とは何か？それは、仲間同士がお互いの想いを伝え合い、分かり合い、それぞれの「個性」を生かし合う事でムーブメントを起こしていく事ではないでしょうか」と校長先生。新たな便利なツールを利用しつつ、時代は変われど変わらない良さを大切にしていこう、ハイブリッドな対応が、教育現場で求められているとの事でした。「伝統は、自然に残るモノ」という校長先生の言葉は、変化を恐れないという姿勢の現れ。そう言えるのも、大谷地区の「伝統的な良さ」から成る基盤があるから……という事でしょうね。



校長室の壁書「心」。この字を構成する4つのパーツは、人の「喜怒哀楽」を表現。この4つのバランスが、常に大事だとの事です。

◆ 編集後記

今年度は新型コロナウイルスの影響で、例年のような活動は出来ず、様々な点で見直しと変更が求められました。そんな時だからこそ、テーマに「命を守る」ICTを活用した新しい教育を掲げ、作成を進めました▼防災や衛生的側面に関する学校の取り組み内容や、新しい時代の学習形態について取材し、各家庭のインターネット環境や子どもの利用状況について調査しました。その中で、考えさせられる事や気付かされる事が多々あり、とても勉強になりました。今年度は1回のこたま発行でしたが、広報委員全員で手分けして、協力しながら作業出来た事は、本当に良かったと思います▼取材にご協力頂いた先生方、アンケートにご協力頂いた保護者の皆様、写真を提供してくださった株式会社アロマイメージ様、広報委員会のアドバイザー的なデザイナーの佐野立樹様に深く感謝致します。

◆ 広報委員

- 1年 柴田 靖乃
- 野田 瑞穂
- 2年 矢崎 悦子
- 風間 綾乃
- 3年 黒柳 友香子(委員長)
- 羽山 貴子
- 4年 永島 杏月
- 古川 陽子
- 5年 藤田 佳寿美
- 安本 康子
- 6年 武内 妙子
- 岩崎 有香